

# ヌレエフ版『ロミオとジュリエット』 に見られるシェークスピアへの意識 —プロコフィエフ作曲『ロミオとジュリエット』 振付史におけるヌレエフ版の位置づけ—

杏林大学 高木眞佐子

## I. 目的

ルドルフ・ヌレエフ振付の『ロミオとジュリエット』が、シェークスピアのテキストを良く研究した極めて知的な演出であることは、既に良く知られている。ヌレエフはシェークスピアに依拠し、ルネサンス時代のイギリスの宮廷人がきつこうだと想像しただろうと思われるイタリアを舞台に映し出すことに心をくいだいた。ソ連で誕生した荘重なラヴロフスキー版とも、情熱的なクランコ版を引き継ぎ劇的要素を強調したマクミラン版とも異なるヌレエフの斬新な演出は、バレエ作品『ロミオとジュリエット』の新境地を切り開いた。

ヌレエフ版に大衆の人気は少ない。しかしその意義は、コンテンポラリーバレエの振付の種子ともなるべき様々なヒントをちりばめたという点にあり、振付史の位置づけの中で新たな存在価値を獲得しつつあるといえる。本研究では、この作品を暴力とセックスと死という視点から読み解き、その歴史的意義を考察する。

## II. 分析と考察

ヌレエフは『ロミオとジュリエット』を振付けるにあたり、『ウェスト・サイド物語』とフランコ・ゼフィレリ監督の映画版『ロミオとジュリエット』からの影響を強く受けた。前者は現代アメリカにおける移民問題に焦点を移すことにより、原作の孕んでいた暴力性をいやがうえにも強調することになったし、後者はシェークスピアのテキストの持つ多様性を引き出すことに成功したために、返って原作の持つ喜劇性や露骨な性的冗談を現代の人々に改めて気づかせることともなった。加えて知り合ってから5日間で至福の恋から絶望による死を迎えるロミオとジュリエットの不幸な運命は、ヌレエフが生来持っている不安定な星回りと、どこか共鳴するところがあった。こうして、ヌレエフ版では暴力とセックス、そして死が、若者のポエティックで情熱的な恋愛に先行することになった。

第一幕でののしりあう男女や、特に女性が平気で男性の横面をぶんなぐったり、相手の女性につばを吐きかけたりする姿は、『ウェスト・サイド物語』の「アメリカ」などでプエルトリコの女たちが男たちと繰り広げる一連のやり取りを想起させる。幕が降りる瞬間にいがみ合うキャピュレット家とモンタギュー一家の影にも、やはり『ウェスト・サイド物語』の「ランブル」を想起せずには

いられない。ヌレエフは、憎悪が町中に蔓延しているという意識を高めることにより、舞台全体の緊迫感を高めることに成功した。一方、乳母が広場に登場するときに頭巾とエプロンのすそをいっばいに広げたり、マキューシオらと卑猥なゲームに打ち興じたりするのは、明らかにゼフィレリの演出を考慮した結果だ。マクミランも同じゼフィレリの影響を強く受けているが、二人が模倣をする箇所はまったく異なっている。マクミランは、ゼフィレリがむしろシェークスピアの原作から離れた独自の演出をしている箇所を好んで真似ているようにも見えるが、一方ヌレエフがゼフィレリに依拠している部分は、監督がシェークスピアを忠実に再現しようとした場合に限られる。マキューシオの死の場面での悪乗りにおいてさえ、一番意識されているのは原作者だ。

また、ヌレエフ版の特徴として死神と床に就くジュリエットや、ティボルトの亡霊と踊るジュリエットの死との親近感は盛んに論じられているが、それらがシェークスピアの台詞そのものへの暗喩であることはさほど論じられていない。ジュリエットはロミオを自分のものにできなければお墓と結婚するといひ、キャピュレット夫人は、親が決めた許婚と結婚できないのであれば、死んでしまえといわんばかりの言葉を投げつける。ジュリエットはまさに、登場の瞬間から「墓と結婚する」ことを定められているのであり、それははじめから彼らの恋が"death-marked love"であるからに他ならない。ヌレエフほど緻密にシェークスピア料白を読み込んだ振付家はなかつただろう。

## III. 結論

暴力もセックスも死も、ヌレエフが勝手に挿入したものではない。シェークスピアに忠実であろうとすれば、いずれも避けては通れぬテーマだ。ヌレエフはそれを直視し、暴力とセックスと死をより純粹かつ抽象的に描き出すプレルジョカージュ版の前触れとなった。

プレルジョカージュ版の世界も暴力とセックスと死に溢れている。ヌレエフ版の真骨頂を、プレルジョカージュは純化し、抽象化した。ジュリエットは登場した瞬間から死そのものであり、いかなるリリシズムもその域を超えてはいない。ヌレエフもプレルジョカージュも、プロコフィエフの旋律に含まれるアイロニーのうねりを正しく感じ取ることにより、問題作を提出しえた。その独特の旋律はプレルジョカージュの振付に乗せた今も古臭いところは微塵もない。シェークスピアのテーマを純粹に見つめることによって新たな現代性を作り出したヌレエフは、シェークスピアとプロコフィエフが融合することの新たな意義を提出したといえる。